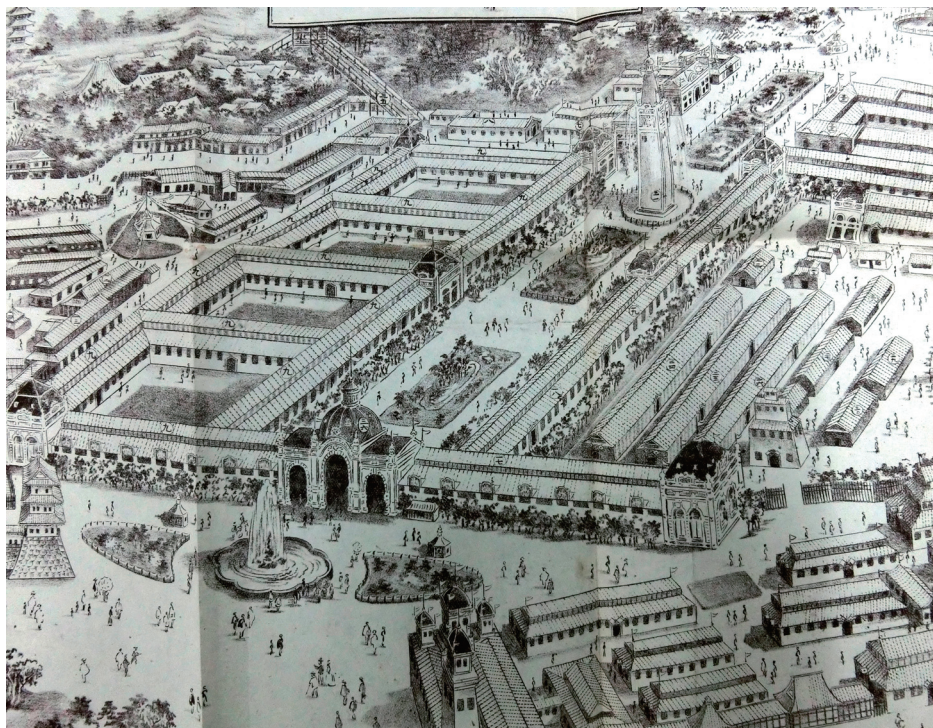


内国勧業博覧会



* 佐川家文書（平生町）3701「第五回内国勧業博覧会全景図」

解説

明治政府は、殖産興業政策の一環として、パリやウィーンで開かれた万国博覧会に参加するとともに、国内で内国勧業博覧会を開き、新しい技術の紹介と普及に努めました。1877（明治10）年に東京上野公園で第1回博覧会が開かれた後、1903（明治36）年まで5回開催されました。

写真は大阪市天王寺で開かれた第5回内国勧業博覧会の会場図です。

正門を入ってすぐ左手の広い敷地を「工業館」が占め、その奥に「教育館」、中庭を挟んで右手に「農業館」、「林業館」などが見えます。中央の「高塔噴水」がランドマークとして目を引きます。「ウォーターシュート」やエレベーター付きの「大林高塔」、夜間のイルミネーションなどエンターテインメントも充実していたため、入場者は過去最高の435万人余りに達し、大きな経済効果も生み出しました。

内国勧業博覧会としてはこれが最後となりましたが、将来の万国博覧会開催も視野に入っていました。



* 写真上は博覧会場の明細図です。序に「今回の博覧会は前回に比べ大変広大会場が複雑である。この詳細な案内図を指針とすれば観覧上で便益を受けるであろう」とあります。カラー印刷されたこの案内図は5銭で販売されており、博覧会を楽しむための有料のガイドブックと言えます。裏面には観覧者の利便のため各鉄道路線の時刻表が印刷されています（佐川家文書（平生町）3701「第五回内国勧業博覧会場内明細図」）。